

マティアス・ショルン

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団首席クラリネット奏者

ザルツブルクに生まれる。8歳よりクラリネットを始める。モーツァルテウムのアロイス・フランク・ホーファー教授のもとで学ぶ。1999年よりウィーン国立音楽大学ヨハン・ヒントラー氏のもとで学び、民族音楽研究および民族音楽学において修士課程修了。

2004年よりウィーン放送交響楽団、2005年にはベルリン・ドイツ交響楽団、2006年にミュンヘンフィルのソロクラリネット奏者としてに入団。

その後ウィーン国立歌劇場の首席クラリネットのオーディションに合格。2007年9月よりウィーン国立歌劇場首席クラリネット奏者、2010年よりウィーンフィル首席奏者を務める。

ソリストとしてはウィーン・フィル、ベルリン・ドイツ交響楽団、ベルリン放送響、リンツ・ブルックナー管弦楽団、ロンドン・モーツァルトプレイヤーズ、ミュンヘン室内管弦楽団、ザンクト・ペテルスブルク・ロシア室内フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、またミュンヘン、ライプツィヒ、インゴルシュタットの室内楽オーケストラ、またG.ドゥダメル、G.デイビス、R.フリーベック・デ・ブルゴス、M.サンデルリンク、A.リープライヒ、A.ツッカーマン、K.ヤルビ、L.フォスター、A.シェレイ、N.ミルトン、L.マゼールとも共演。室内楽奏者としては、C.エッセンバッハ、D.ホープ、B.シュミット、M.グルービンガー、A.ダッシュ、V.ハグナー、V.エバーレ、D.ミュラー＝ショット、A.ミュラー＝シュタール、S.デュ・モン、J.シュテンベルガー、K.ハックル、エベン四重奏団、フォーレ四重奏団、ミネティ四重奏団、デンマークストリングス四重奏団、アポロムサゲーテ四重奏団、他数々の世界的奏者との共演を重ねている。

また彼の音楽の理想のもとプロデュースしているオーバーアルム(ザルツブルグ)で開催されている音楽祭パルムクラングだけではなく、様々な室内楽アンサンブル、マークシャガールトリオ、テオフィルアンサンブルウィーンや世界的音楽アンサンブルのファルテンラジオでも活躍している。2007年よりウィーン・コンセルバヴァトリウム私立大学で教鞭もとり、世界中でマスタークラスを行うなど後進の指導にもあたっている。